



組合と協会

アメリカほどではないですが、イギリスの舞台労働組合も力をつけてきています。組合などに全く疎かった私ですが、あることがきっかけで私も組合に入りました。数年前に、ある仕事をした後、十数万円近くの支払いがされず(機材費も私が立て替えたため、私にとっては大金でした)、払い手が逃亡する事件がありました。契約書も証拠書類もすべて手元にあるのですが、私も含め、プロダクションチーム全員がお給料を支払われなかったのです。そんなことがあるなんて考えられますか？警察署、裁判所、組合、ありとあらゆる所に助けを願い出しましたが、払い手の人間が完全に逃亡したため、「住所不明の人間を訴えることは法律上できません」という答えが返ってきたのです。では指名手配はなんのためにあるのか？と思います。そして組合すら私たちの助けにはなれなかったのです。彼らは、その逃亡者の名前を業界ブラックリストに載せ、組合

員に注意のメールを送ることしかできませんでした。組合に傷害保険は含まれますが、契約違反状況に置かれたときの保険はありません。組合の最大の目的は「組合員の雇用を維持、保護し、改善すること」。保護と保険は明らかに違うということを思い知らされました。自分の身は自分で守りたいのですが、信用していい人と、悪い人の区別は、実際に仕事が始まってからでないとわからないのが、恐ろしいところであり、この業界でフリーで生きていく上での、大きなギャンブルだと思います。

私は、英国照明家協会のメンバーでもあります。メンバーシップはプロフェッショナル(年間協会費1万5千円ほど)、コーポレート(7万円)、アソシエーション(8千円)、学生(5千円)とランクに分かれています。英国照明家協会に傷害保険は含まれませんが、協会の目的は照明家の芸術的感性と技術力を高

め、労働条件と環境を改善し、照明という仕事を世の中で関心あるものにしていくということにあるそうです。協会メンバーの特典は、他の照明家と情報交換ができる会合が2ヵ月に1回ほど持たれること、協会賞があること、展示会等の招待状をもらえること、機材レンタル等の割引もしてもらえます。そして、協会のWebサイトで自分のポートフォリオページを作れ、それを見た舞台関係のクライアントから仕事が回ってくることもあります。協会はエージェントとは違うので、もちろん仕事は取ってきてはくれません。しかし、メンバーに入っていると輪が広がるのは確かです。イギリスは、日本ほど資格重視ではないので、実力と実績、そして少しのコネクションがあれば、照明家として道は切り開きやすい場所だと思います。日本照明家協会と英国照明家協会の大きな違いについてですが、英国照明家協会は舞台照明デザイナーのための協会ですが、日本照明家協会は、舞台だけではなく、幅広いジャンルの照明デザイナー、そして照明技術者も協会の枠には入っているところが大きな違いではないでしょうか。そのため、ジャンルを超えた照明技術の情報交換ができるのはとても素晴らしいことだと思います。英国ではTV照明協会、建築照明協会も存在するそうですが、彼らとの会合はないに等しいです。英国照明家協会の良いところは(日本もそうかもしれませんが)、照明機材会社が率先して、協会会合のオーガナイザー、または、スポンサーになったり、機材講習を開いたりします。つまり、常に彼らの新機材や情報が手に入りやすくなるのです。そして、照明だけにかかわらず、セットデザイナー等のクリエイティブたちと会合できる機会があるのも魅力的です。

